

いろいろな動きを言ってみよう

～動詞とその目的語～



学習のポイント

- いろいろな動きを表すことができる

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

いろいろな動きを表すことができる

The noodles are ready!

この表現は、フィリップが麺をゆで終わり、「麺ができたよ!」と言っているものです。自分がゆでた麺ですので、**the**を使っています。麺は何本もあるので、**noodles**と複数であることを表す**-s**が付いています。**are**は状態を表します。**You are hungry.**とえば、「あなたは空腹の状態にある」というのが元々の意味です。最後の**ready**とは、これまでいろいろと準備をしてきた末に、やっと何かが出来上がったことを指します。

よく、**Dinner is ready.**と言って夕飯の準備ができたことを告げますが、これも夕飯の準備をしてきた末に出来上がったという意味です。言葉は状況と結びついています。その状況にぴったりの表現を聞くとその状況が浮かび上がってきます。そのような表現は状況を見ればその意味するところが一目瞭然です。コミュニケーションとは言葉と状況がマッチして始めて成り立つものです。

■単語や表現

My mother has many cookbooks.

「～を持っている」という動作は**have**で表します。**have**も他の動作を表す語と同じように、自分「I」でもなく、相手「you」でもない1人の人の動作を表すときには、動作を表す語の最後に**-s**を付けます。と言うことは、**have** → **haves**となるはずですが、若干形を変えた**has**を使うので注意しましょう。

【使い方】 Naomi has a big car. (直美は大きな車を持っています)

Ryo has a knife and a fork in his hands. (亮は手にナイフとフォークを持っています)

Put this soup in these bowls.

putは「置く」という意味ですが、「何を」「どこに」置くのかを言う必要があります。

例えば、「右手を机の上に置きなさい」と言うのであれば、「何を」に当たるのが **your right hand** で、「どこに」に当たるのが **on the desk** です。

これらを、**put** + 「置くもの」 + 「置くところ」の順番で言うと、**Put your right hand on the desk.**という文が出来上がります。

- 【使い方】 Put your hands both on your head. (両手を頭の上に置け)
 Put some soy sauce in your ramen. (醤油をラーメンに入れるといいよ)
 Put the flowers outside. (花を外に出しなさい)

■英語の決まり

私は トマトを 育てています。

I grow tomatoes.

日本語では、「私はトマトを育てています」というように、「私」の後に「私が育てている物」を言い、その後に「育てています」という動きを表す語を言います。

一方、英語では、文の最初に「私」を意味する「I」を言うことは同じですが、その後に「育てています」という意味のgrowを言い、その後に育てている「トマト」に当たるtomatoesを言います。日本語の言い方になれている私たちにとって、「私は 育てています トマトを」という言い方は奇妙に感じますが、これが英語での表現のしかたというわけです。以下に、いくつか日本語と英語の文を並べて出しておきます。違いを実感してみてください。

私は トマトが 好きです。

I like tomatoes.

私は 缶を2つ 持っています。

I have two cans.

私は 食べ物が 欲しい。

I want some food.

相手に対して何か指示を出したり、お願いするときにもこの違いが現れます。まず最初に動作を言い、その後に「何を」に当たる語を続けます。

お湯を 沸かして。

Boil some water.

トマトを2つ 切って。

Cut two tomatoes.

玉ねぎを 薄く切って。

Slice this onion.

column

アルファベットと発音 ⑧

N n

エンと発音しますが、舌を上歯茎に力を入れて付けて発音することが大事です。英語の N、n は日本語の「ん」とよく比較されますが、両者はかなり違います。新橋、神田、本郷、案、遠泳、どれもひらがなで書けば「ん」ですが、発音のしかたが微妙に異なります。

新橋の「ん」は両唇を閉じて発音します。神田の「ん」は舌を上歯茎に付けて発音します。本郷の「ん」は舌を口の奥の上に付けて発音します。案の「ん」は喉の奥で息を止めて発音します。遠泳の「ん」は普通に発音する場合は舌がどこにもつきません。このように、日本語の「ん」は周りの発音の影響を受けていろいろな方法で発音されますが、英語の N、n は周りの音がどう発音されようとも、舌を上歯茎に強く当てて発音するのみです。試しに、Can you と an orange を発音してみてください。もしも「キャンニュ」「アンノレンジ」と聞こえるように発音で来たらそれは英語の N、n を発音していることになります。いかがでしょうか。



O o

オーと発音します。オーではありませんので注意しましょう。OK の語源は定かではありませんが、この表現は会話では極めてよく使われます。意味も日本語でいうところのオーケー、オッケーと似ているので私たちにとっては使いやすい表現です。



【使い方】

Are you OK?

気分の悪そうな人に向かって「大丈夫ですか」と聞くとき。

It is OK with me.

提案などに対して「それで私としては構いません」と了解するとき。

It is fine with me. とも言います。単に OK. とだけ言っても同じです。

It is OK...

良いとは言えないけれどもまあまあじゃないのと、しつしつ評価をするとき。最後を歯切れを悪く言うのが特徴的です。

That's OK.

相手からの謝罪などに対して、「いいんですよ」と理解を示すとき。

OK. 一呼吸おいて次に進むとき。OK. Let's move on. 「はい、それじゃ、次に行こう」

old とは、「年をとった、年配の、古くなった」という意味です。

I am seventy-three years old. (私は 73 歳です)

This is an old castle. (これは古いお城です)